

事云る姦臣國を亂る記也、

毛吹草<sup>ミツバ</sup>出羽<sup>ハタケ</sup>鮎<sup>アマツチ</sup>鮒<sup>ヒラメ</sup>ニ似タ

鰯

大和本草<sup>十海魚十三</sup>鰯<sup>アマツチ</sup>其色黃褐ナリ、長一尺許、味ヨカラズ、一二月ノ比トル俗民ノ説ニ此魚多ケレバ民飢饉スト云鰯<sup>アマツチ</sup>ハ俗字ナリ、未詳所出、

カヤ

キダコ

大和本草<sup>十海魚十三</sup>カヤ<sup>アマツチ</sup>若狭ノ大島ノ海ニアリ、他處ニナシト云、長三四寸ヨリ一尺ニイタル、鮒ニ似テ少セバシ、鮒ノ類ニアラズ、味ヨシ、腥カラズ、鮓トナシテ尤美ナリ、無毒、

大和本草<sup>十海魚十三</sup>キダコ<sup>アマツチ</sup>長二三尺無鱗、色ハ淡黒斑點アリ、尾ニマタナシ、頭大ニ尾小ナリ、下腮少長シ、目小ニシテナキガ如シ、身ハマルカラズ、長崎ニアリ、或曰體ナラント云ハ非也、本草ノ體ノ形狀ト同カラズ、

トクヒレ

大和本草<sup>十海魚十三</sup>トクヒレ<sup>アマツチ</sup>奥州ノ海ニアリ、長一尺三四寸、魚ニヨリテ大小アリ、横ハセバシ、其身鱗皮段々アリテ横ニ連レリ、背與腹ノカドニ短刺多ク連レリ、尾ノ方ハカド五アリ、ヒレ背腹兩方ニ長ク連レリ、各三寸半許、肉ニ筋多クシテ傘ノ骨アルガ如シ、背ハ下腮短シ、首ハ不大、性味漢名不知甚他魚ニ異レリ、奇品ナリ、

魚鑑下<sup>アマツチ</sup>ねつ、ぼう 江中の小鱗なり、好て水岸に來り、餌を弄し、釣徒を妨ぐ、狀全く牛魚<sup>ウオ</sup>に似て、大者二三寸、小者一二寸、満身に涎を帶ぶ、肉味よからず、

烹雜の記<sup>前集上</sup>多湊ぶり

鈎<sup>アマツチ</sup>  
龍宮鶴<sup>アマツチ</sup>  
魚<sup>アマツチ</sup>  
鰯<sup>アマツチ</sup>  
鰐<sup>アマツチ</sup>

佐渡に三十種の異魚ありといふ。<sup>○中略</sup>秃骨畢列<sup>○とこひれ</sup>解澤<sup>○</sup>按するに方言とこひれとは長鰐魚の義にや、又銳鰐の義にや、こときと通す、この物鰐の種類ならん歟、目は黄なり、頭より背に至て、すべて薄青色也、鰐の端は褐色にて、その餘は水色に薄黒を帶て、斑に點あり、腮の端少許紅、或記云、此魚全體文鰐魚に似たり、六の稜あり、稜に小なる刺あり、刺毎に細脈、龜甲の紋の如し、